

令和4年度 新富町立富田小学校 学校関係者評価書

評価：「4：よくできている」「3：できている」「2：あまりできていない」「1：できていない」 ○成果のあったこと ●課題・改善が必要なこと

重点 目標	ゴールイメージ		課題と具体的な手立て	自己評価の手立て (時期、評価基準・数値目標)	学校の自己評価コメント（結果の考察・分析）	自己評価（評定）		学校関係者 総合評価	学校関係者評価コメント	次年度への改善策
						指標別	総合			
「特別支援教育」「生徒指導」の充実	1	スクールワイドP B Sを活用した積極的な生徒指導の充実を図る。	① 適切な称賛活動と前向きな振り返りを行うことで、自己肯定感・自己有用感の醸成を図る。	○ 行動マトリクスを活用し、各学級や委員会活動で各学期の初めや終わり、日常生活での積極的な活用を図り、児童のポジティブな行動支援につなげる。 ○ 各学期のキャンペーンでの児童の達成度を評価し、ポジティブな行動支援を行う。	○ キャンペーンの振り返りを教師が評価したり、委員会活動の実践へと繋げたりすることで、全校が一体となり取り組むことができた。	3	3	3.3	○ 児童が褒められることで、積極的に色々な活動を行うようになることは素晴らしいと思う。あいさつもこの流れで改善すると良い。 ○ 児童が自ら実行し出したのは教職員の指導力を評価したい。児童の良い点を見逃さず褒め、伸ばしていくことがやる気に結びつくと思われる。P T Aとの連携による家庭教育の推進も重要と思われる。 ● 「はぐくみの会」のことが気になります。まずは、困り感をもっている児童と担任の関係性が大切だと思います。この会で情報共有できることはとても有効だと思いますが、大切なのはその後の具体的な対応、子ども達の日々の変化等の報告が重要だと思います。	○ キャンペーン（重点取組週間）の内容と実施方法をさらに充実させるとともに、児童が自分達自身の成長を実感できる振り返りができるように反省の仕方を工夫していく。 ○ はぐくみの会で出された内容を確実に蓄積するとともに、対象児童の変容を継続的に確認できるようなシステムの構築を図っていく。
			② 望ましいあいさつと返事を通した、児童同士、職員と児童のつながりの充実を図る。	○ 小中合同あいさつ運動を実施し、あいさつの大切さの意識づけを図る。 ○ 定期的に教育相談を実施し、児童のS O Sの早期発見に努めるとともに、日頃から児童の様子を注意深く観察する。	○ 正門・西門付近に立つ児童・生徒は元気にあいさつすることができた。 ○ 毎月1回アンケートを実施し、担任と児童との面談を行った。その結果を毎月実施する「はぐくみの会」で報告し情報共有を行った。 ● 登校してくる児童のあいさつは消極的である。 ● 「はぐくみの会」で情報共有、共通理解はできたが、具体的な対応等についての検討はできなかった。	2				
			③ 朝の会・帰りの会の充実やソーシャルスキルトレーニング等の活用を通して、自己理解と他者理解の育成を図る。	○ 帰りの会で、その日の善行児童を紹介、称賛する場を設ける。 ○ 学級活動で、友だち作りのアクティビティやソーシャルスキルトレーニング等を行う。	○ 教師が児童の「いいとこみつけ」を行い、給食時間に放送をしていくことで、児童が放送された内容のよいモデルを意識し、行動をするようになってきている。	4				
学力の向上	1	児童が「分かった」「できた」ことを実感できる授業を展開する。	① 県教委提示の「授業改善4＋4のチェックポイント」を基盤にしながら、タブレットを積極的に活用した授業を展開する。	○ 教職員の自己評価学力向上対策（チェックポイントの活用推進）	(職員アンケート結果より) ○ 「授業改善4＋4のチェックポイント」を意識しながら取り組むことができたか。…78％の職員ができたと回答している。 ○ タブレットを積極的に活用した授業を展開できたか…76％の職員ができたと回答している。	3	3	3	○ タブレット活用については前進的な向上を目指していただきたい。アンケートの結果から、約8割の先生方が授業改善に向けて意識を高めていることが分かりました。残りの先生方への支援を今後も続けてほしい。 ● 新しい学びの形としてのI C Tの活用は不可欠だが、これまで培ってきた指導方法や理念も大切にしてほしい。先生方の更なる研究を期待している。	○ タブレットによる授業改善のための研修を計画的に位置づけるとともに、学年間の相互授業参観を通して、ICTを活用した授業力向上を目指す。
			② 学習形態や場の設定の工夫等を通して、学習に挑戦しようとする意欲の育成を図る。	○ 教職員の自己評価及び児童の評価（児童・職員アンケート結果）	(職員アンケート結果より) ○ 学習形態や場の設定の工夫をしたか。…88％の職員ができたと回答している。 ○ その授業の中の課題を達成できた児童については、eライブラリなどを使ってさらに自分が取り組みたい学習に挑戦させたか。…62％の職員ができたと回答している。	3				
健康・安全教育の充実	1	体育の日常化と体育指導の工夫充・実を図る。	① 体力の向上を図る日常的な取組と、I C T機器を活用した主体的な授業を展開するなど体育指導の充実に努める。	○ 「朝の体操」の見直し ○ 体力テストの結果を踏まえた日常的な指導の充実 ○ タブレットを活用した授業の啓発（年間1回は各学級で活用）	○ 朝の体操は、外部講師の助言を取り入れ、児童の実態を踏まえながら新しい体操を提案、実施することができた。 ○ 高学年の体育の学習において、様々な用途でタブレットを活用して授業をすることができた。タブレットを活用した授業の啓発までにはいかなかったので、今後は本年度の取組、気付き等を先生方と共有していきたい。	3	3	3.5	○ タブレットを活用することによって、具体的に自分の動きを確認したり、コツをつかんだりすることは有効だと思います。 ● コロナ禍で児童の体力は低下しているが、行動を自ら制限する影響も無視できない。体を動かす運動は継続的に行うことを目指してください。 ○ 掲示物やワークシートの活用によって分かりやすい授業を展開していることは有りがたいと思いました。 ● ワークシートや指導方法等を、学年をこえてどう共有しているかが今一つ見えてこなかった。	○ 年間計画を見通してタブレットを活用した授業を計画的に取り入れるとともに、体育の指導力向上を図るための研修を実施する。
			② めあてや場の設定を工夫し、運動に挑戦しようとする意欲の育成を図る。	○ 授業で用いる掲示物の充実と活用 ○ ワークシート、学習カードの充実と活用	○ 掲示物やワークシート、場の設定を工夫することで、子ども達が意欲的に体育学習に取り組む場面が見られた。 ○ 作成したワークシートを学年をこえて共有し、活用することで系統的に体育学習の指導をすることができた。	3				
	2	保健指導の充実と家庭との連携を図る。	① 衛生習慣の定着と感染予防対策等の保健指導の充実を図る。	○ さわやかチェックの実施 ○ 毎朝の体温・体調の自己管理 ○ 手洗い・うがい・マスク着用の徹底 ○ 長期休業中の生活リズムチェック	○ さわやかチェックについては、毎月実施し、前日の呼びかけ、結果の知らせを必ず行った。 ○ 毎朝の体温チェック、毎日のマスク着用については、ほとんどの児童が忘れずに行っている。	4				○ 生徒指導面の約束（富田っ子のきまり）と合わせて、基本的生活習慣等のきまりについて保護者への啓発を図る。
			② 家庭と連携した望ましいメディア習慣の確立を目指す。	○ 長期休業中の生活リズムチェックの活用	○ 冬休み期間中、生活リズムチェック表を配付し、メディアの視聴時間等についても呼びかけを行った。取組については、個人差があった。	3				
信頼される学校づくりの推進	1	地域に貢献し、地域から愛される学校づくりに努める。	① 「安心メール」と学校ホームページを活用した情報発信による学校の取組の周知を行うとともに、信頼される学校づくりに努める。	○ 安心メールの積極的な活用と、学校ホームページの定期的な更新を推進する。	○ 2学期から安心メールによる欠席届を導入し、朝の電話対応の煩雑さが解消された。また、保護者宛文書もできるだけ安心メールで配信することで、経費削減や仕事量の軽減とそれに伴う職員が児童と触れ合う時間の確保につなげることができた。	3	3	3.25	○ 安心メールによる欠席届は、学校にとっても保護者にとっても便利だと思います。また、文書を減らす点からの活用もなされており良いと感じました。 ● ホームページの定期的な更新はこれからも続けてほしいところです。私を含め楽しみにして人がいると思いますので。	○ 今後も、各案内文書や連絡等を安心メールで配信することによって、保護者への周知徹底を図るとともに、経費削減に努めていく。
			② 地域素材・地域人材の授業への活用と、地域でのボランティア等、協働活動の在り方を工夫する。	○ 地域素材・地域人材の活用（各学年年間最低1回以上） ○ 教育課程・学校評価アンケートにおける満足度80％以上	○ 地域人材については、人材バンクを作成し次年度以降、効果的な活用を図る手立てをとった。 ○ 6年家庭科・総合、5年学級活動「いのちの教育」、4年社会（リモートによる講話）、3年総合「高齢者体験」において活用を図った。 ○ 地域素材については、1・2年の生活科や3年社会において、校区内探検の際に活用を図った。	3				